

メッセージアウトライン

テサロニケ人への手紙 第一 1:1

「テサロニケ人へのあいさつ」

[1] 「パウロ、シルワノ、テモテから、父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ。恵みと平安があなたがたの上にありますように」

この手紙のあて先はテサロニケ人の教会。手紙の送り主はパウロ、シルワノ、テモテの三人。この中でパウロが指導的役割を果たしているのは明らか。シルワノは第二回伝道旅行の最初から同行したシラスの正式な名前と考えられる。→使徒15:40 テモテは第二回伝道旅行の途中ルステラでパウロが同労者として選び、同行させた。→使徒16:1~3 彼はまだ若かったが、パウロは彼に深い信頼を置いていた。→Iテモテ1:2

テサロニケはギリシヤ北部のマケドニヤ州に位置し、エーゲ海に面した港町であり、ローマからアジアに抜ける交通の重要地点にあった。当時人口約20万人の大都会。多くの民族と宗教が存在し、繁栄していた。

「執筆事情」

使徒15:40以下からパウロの第2回伝道旅行が始まっており、シリアのアンテオケから出発して第1回伝道旅行を行ったガラテヤ地方を通り、そこで諸教会を励まし、聖霊の導きによりトロアスからエーゲ海を船で渡り、ギリシヤ北部のマケドニヤ州に到着し、ピリピで伝道した後、テサロニケへ行った。→使徒17章 ここで短期間伝道するがユダヤ人たちの反対に会い、さらに南のベレヤに行つて伝道する。しかし、やはりユダヤ人たちの扇動によって騒ぎが起こり、パウロだけ先にアテネへ行く。できたばかりのテサロニケの教会のことを心配するパウロはベレヤから戻ってきたテモテをテサロニケへ派遣する。→Iテモテ3:1~5 そして今、テモテがテサロニケから帰つてテサロニケ教会の人々が困難な状況の中で福音に堅く立っているという嬉しいニュースを伝え、また彼らの直面している問題も知らせた。それにもとづいてパウロはこのテサロニケ人への第一の手紙を書き送ったのである。執筆の場所はその後の伝道地のコリントと思われる。

この1章1節からは教会とはどういうものであるかその本質を知ることができる。

1. ここで教会は「テサロニケ人の教会」と言われるように歴史的、地理的面を持つ。その時代とその地方に実際に存在している。

2. 教会はギリシヤ語では「エクレシア」と言い、呼び出された者たち、召された者たちという意味を持つ。つまりこの世から神によって召し集められた者の集まりなのである。

3. 「父なる神および主イエス・キリストにある」という表現は教会の存在の根拠を明確に示す。教会は天地万物を造られた唯一の真の神を「父なる神」と告白し、人となってこの世に来られたナザレのイエスを「主イエス・キリスト」救い主と告白するその信仰にもとづいて存在し形成されているのである。

4. さらに注目すべきことは「父なる神」と「主イエス・キリスト」が「および(カ

イ)」という言葉で並列関係に置かれている。つまり、「父なる神」と「主イエス・キリスト」が同等のお方として記されている。キリストは人となってこの世に来られた子なる神なのである。→ピロピ° 2:6~11

1節後半ではパウロは「恵みと平安があなたがたの上にありますように」と、現実に生き、戦っているテサロニケ教会の上に祝福を祈る。

「恵み」は神の一方的なあわれみ、過分の恩寵を意味するが、さらに具体的にはイエス・キリストにあって人の罪が取り去られる救い、また罪赦された者を新しい使命のために力づけるものといえる。→Iコリント15:9~10 キリストにあるこの神の恵みの事実こそ教会を教会とするものである。

「平安」は単に心が静か、戦いがないという消極的なものではなく、キリストによってもたらされた救いにもとづく生活の全領域における心の充足、また、神の意志にもとづく真の望ましい霊的繁栄の状態を指す。武力や権力によってもたらされる一時的な平安ではなく、神のみこころのなるところに真の平安がもたらされる。

このような意味を持つ「恵みと平安」を祈ることによって、パウロはテサロニケ教会が歴史的、地理的にその置かれているところで教会の本質を具体的に表していくことを願っている。

私たちもこの神からの恵みと平安を祈り求めつつ、父なる神と主イエス・キリストにある正しい教会、神のみこころを行う教会として歩んでいかなければならない。